

「会員短信 56」

「活字中毒・猫中毒」

谷本 宴

本が好き、猫も好きです。人生初の記憶は、縁側に猫が居て、三歳位の私は庭で三輪車に乗ったまま一日中、絵本を読んでいる風景です。

年間の読書は、三五〇冊前後ですが、本だけでなく、お風呂の中でも湯船に入りながら、シャンプーや洗顔料の容器の裏の文字も読みます。

こんな私が、五年程前、当時の同僚に誘われて俳句を始め、さらに「滑稽俳句」に誘われ二年半が経ちました。読書はINであり、俳句はOUTの作業。言葉による混沌の海からひらめきと苦しみ(!)をへて、作句しています。五七五のジグソーパズルがぴったりと合った時の快感は、俳人として至福の瞬間です。

現在、我家は諸事情で猫は飼えませんが、実家と娘の所にいる猫と、インスタやユーチューブの映像の猫で癒されています。ついつい、俳句にも猫の登場が多くなってしまいます。猫は自由でありながら、媚びずに程良い距離で寄り添うところが好きです。人と人もそんな風にいられたらと思います。

今後も、言葉の海にたゆたいながら、時にはゆっくりと泳ぎながら、自分なりに句を詠んでゆきたいと考えております。

メルカりに売っているかな春隣  
カピバラのほうとした顔花粉症  
スキップの似合ふ年頃聖五月  
縁側は西瓜の種をとばすところ  
ゴッホはねさみしがりやよ星月夜